

【水の作文大賞】くまTOMO賞

2つの水道から流れてくる水

鹿本中学校 一年 西川 麻生

私のおじいちゃんの水道には、種類のちがう水が出ています。1つは、水道水で、もう1つは、山水です。

私の家の周りは、山が多く、田んぼも多い自然豊かな場所です。そのため山水は、農業をしている人達には、かせないものです。

たとえば、家では、たけのこほり、米作り、野菜作りなどをしていきます。そこで、たけのこを洗ったり、田んぼに水をためたり、野菜に水をあげたりして水が必要な分使います。そのため水道水では、たりずおじいちゃんや地域の人たちが山から水をパイプで引いて、水を使っています。しかし、毎日山水に頼ることは、できません。地しんがおきてパイプがはずれたり、雨がふらなくなると水が少なくなったり、田はたの水のつかいすぎで、つかいはたしたりするからです。そんな時、おじいちゃんたちは、山に行きしゅう理したり、地域の皆さんでこれからどうするかを話し自分達の水を自分達で守っています。

もう一つの水は、山鹿市の水道水です。その水は、出なくなることはありません。それは、4年生の時に水道局に見学に行きました。そこでは、山鹿市の市民に水がゆきわたるように管理している人がいました。いろいろな工夫があって、山鹿市の人達に水が送られています。その人達のおかげで、家の水道水も使えるんだなあと思いました。

ある日、私は、おばあちゃんに

「お米なんでこんなにおいしいと。」

と聞いたことがあります。するとおばあちゃんは、

「それはね、山水で作っているからだよ。」といわれた。私は、そんなに水の味のちがいについては、あまり考えたことは、なかったけど、言われてみると、おいしい水で作ったお米と、おいしい水でいただいたご飯を

あたりまえのように食べている自分は、とてもぜいたくで幸せなんだなあと思っています。

ときどきおじいちゃんは、山へ行きます。それは、木を切りに行ったり、山の様子を見に行っています。なぜかという、山を整備しないと木が落ちてしまつて、土砂くずれが起つたりするからだそうです。木が育たないと水をしっかりとくわえることができないので山水もとることができなくなります。なので山の手いれをすることが大切だそうです。だけど、おじいちゃんも高齢になり、地域の人もおとしよりが増えて山の手いれにもゆきとどいていなくて、困まっているようです。山を守ることに水を守ることもなると思いました。

この話を聞いてみると、家の水をあたりまえに飲みあたりまえのように、使っているの、これをきに、水の使いすぎにも注意しようと思えました。また、このように高齢になると、水もいままでのように使えなくなったり、生活や地域の人達もみんな困つてくるので、できるだけ自分でできることを探し、手伝ったり、ふだん、顔をあらうときにせんめんきをつかったり、水を飲む時にコップを使ったり、できるので、水を管理している人や、水を大切に守っている人達のことを考えて、大切にこれからも使おうと思いました。